

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第48週 (11/28-12/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		48週	47週	46週	45週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	18	18	18
	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ*	27	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	注 意 報	千 葉 市				千 葉 県
			11/28-12/4	11/21-11/27	11/14-11/20	11/7-11/13	11/21-11/27
			48週	47週	46週	45週	47週
小 児 科	RSウイルス感染症		6 0.35	0 0.00	3 0.17	4 0.22	38 0.28
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	1 0.06	0 0.00	22 0.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	44 2.59	27 1.50	34 1.89	43 2.39	376 2.79
	感染性胃腸炎	○	293 17.24	264 14.67	294 16.33	185 10.28	2,070 15.33
	水痘		13 0.76	5 0.28	11 0.61	3 0.17	61 0.45
	手足口病		17 1.00	16 0.89	19 1.06	17 0.94	134 0.99
	伝染性紅斑		2 0.12	2 0.11	0 0.00	2 0.11	18 0.13
	突発性発しん		10 0.59	15 0.83	11 0.61	9 0.50	60 0.44
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.03
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	2 0.11	7 0.39	5 0.04
	流行性耳下腺炎		8 0.47	7 0.39	8 0.44	8 0.44	67 0.50
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	93 3.44	37 1.32	17 0.63	16 0.57	353 1.64
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	0 0.00	1 0.20	2 0.40	27 0.82
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	2 2.00	11 1.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	50歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	50歳代	IGRA検査等				
結核	男性	70歳代	画像診断等	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査等				
結核	女性	50歳代	IGRA検査等	-	-	-	-

・第48週は、結核5件(223)、腸管出血性大腸菌感染症1件(20)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(27)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第48週のコメント

<インフルエンザ> 前週より増加し3.44となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<感染性胃腸炎> 前週より増加し17.24となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.59となった。過去10年の同時期と比べると多い。

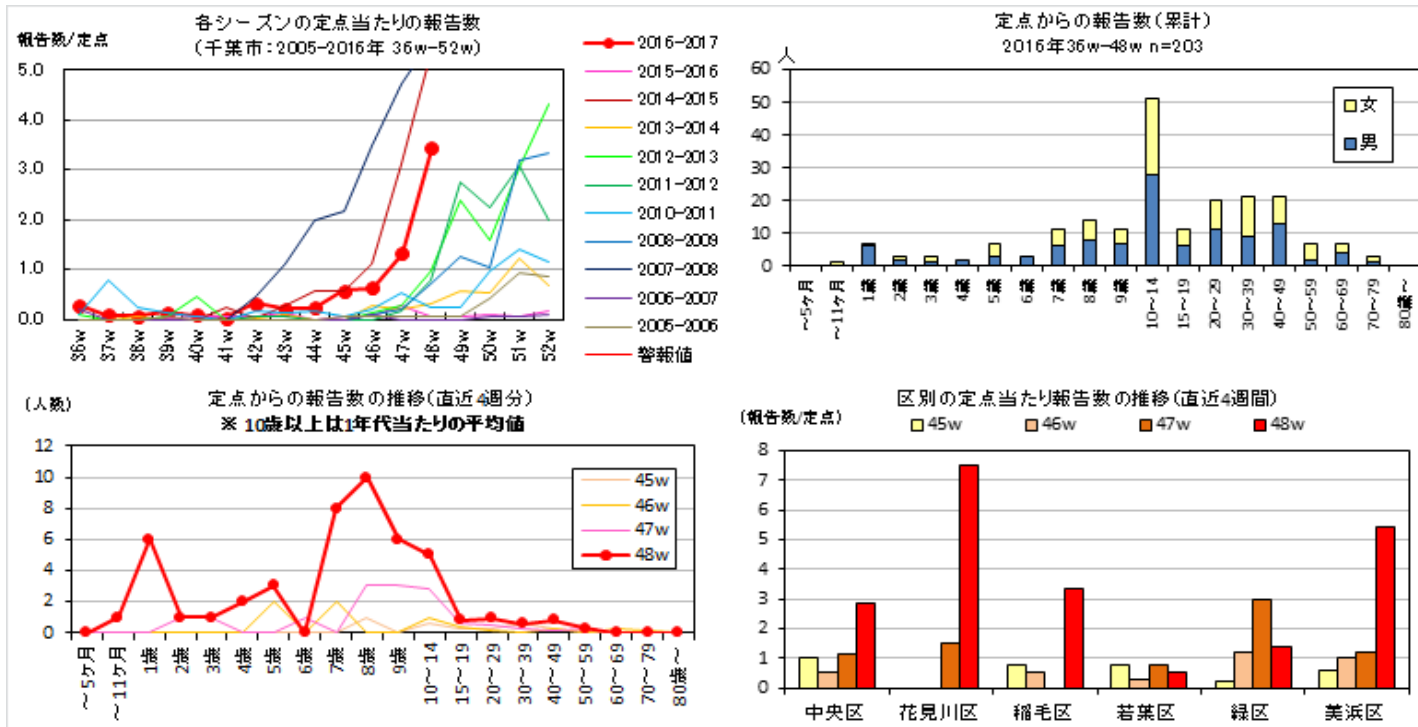
■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第47週は、過去9年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除くと最多となっています。都道府県別では、沖縄県、栃木県、福井県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の第48週は、前週より増加し3.44となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(7.5/定点)で最多となっており、同区の10歳代前半で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週から第48週までの累積報告数(n=203)によると、性別では男性が55.2%(112名)、女性が44.8%(91名)で、年代別の年齢階級別では8歳(6.9%:14名)、7歳及び9歳(共に5.4%:11名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の61.1%、10歳未満は全体の30.5%となっています。

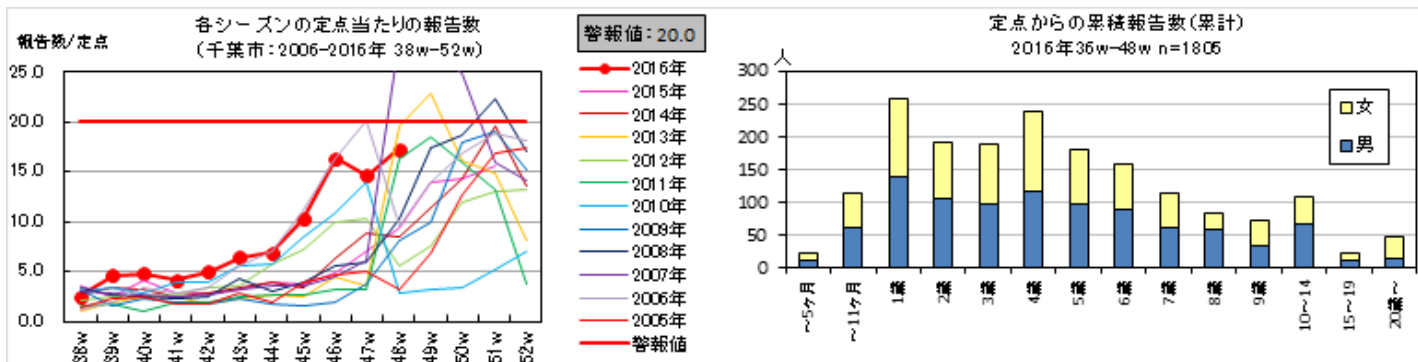
※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第47週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮城県、山形県、三重県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第48週は、前週より増加し17.24となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(21.8/定点)で流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。また、若葉区(20.0/定点)では流行発生警報開始基準値と並んでおり、稲毛区(18.5/定点)では流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報終息基準値(12.0/定点)を上回っています。

今シーズンである2016年第36週から第48週までの累積報告数(n=1805)によると、性別では男性が53.7%(969名)、女性が46.3%(836名)で、年齢階級別では1歳(14.3%:258名)、4歳(13.3%:240名)、2歳(10.6%:191名)の順に多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第47週は過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、山形県、北海道、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の第48週は、前週より増加し2.59となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(3.5/定点)で最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週から第48週までの累積報告数(n=384)によると、性別では男性が50.5%(194名)、女性が49.5%(190名)で、年齢階級別では10～14歳(13.8%:53名)、5歳(12.0%:46名)、6歳(11.5%:44名)の順に多くなっています。

